



君のやる気を受けとめる

公募制推薦入学試験  
今年度より全学部で実施

【出願期間】

10/28(金)~11/2(水)

詳細はコチラ

<http://ch.konan-u.ac.jp/>



ゼミには多くの学生が所属する安西教授。専門は日本政治思想史

の気風」を考える。また明治天皇も講義を受け平生も愛読した「立志編」を「真の君子」への道程のみならず science(サイエンス)が技術に通ずる「芸術」と訳された理由を議論する。さらに「文明論」では蔵六や論吉が学び洪庵が訳した「扶氏経論遺訓」にある近因・遠因論を歴史認識に応用している福澤の意図を理解する。こうして過去・現在・未来を巨視的かつ微視的に見る目を共に育んでいる。

# 人類の星の時間を求めて、 あるいは歴史における 近因と遠因の研究

甲南大学 法学部 安西敏三教授

司馬遼太郎『花神』の主題は「技術と人間」である。村田蔵六(大村益次郎)が主人公であるが、彼を取り巻く綺羅星の如く描かれている人間模様も、織り交ぜられた時代や風土や思想の描写と共に、読者の興味をそそる。上級武士の特権であった指揮権を農民出身の蔵六が「やりましょう」と言って対幕戦争を勝利に導き、身分制が瓦解する様相の叙述は、ツヴァイクが『人類の星の時間』で表現した歴史における象徴的画期よろしく、見事である。蔵六の技術を伴った指導力の遠因となったのが大阪は緒方洪庵の学舎である。甲南学園の創立者平生三郎が英国の公認私立校と共に、その「師弟同行教育」を評価した吉田松陰の松下村塾と並び称される近代日本の黎明期における最大の人材養成機関が洪庵の適塾であった。心に適する適適齋という洪庵の号は塾名となり、その名の通り個性に適した教育は多種多様な人材を輩出させた。そうして適塾を母体とする大阪帝国大学は、人物教育や個性教育を謳った平生の尽力によって設立を見たのであった。



塾という私設教育機関は自由な議論が行われ、公共性をもたらす知の共和国であった。平生が力説する共働互助を伴う実力主義の場である。素読・会読・講釈・独看という能動的学習法は実力による等級を可能とし、その情景は適塾で学んだ福澤諭吉の自伝において活写されており、蔵六も諭吉同様、頭角を現していた。ペリー来航が明治維新の近因とするならば、適塾のような知の共和国の存在は、その遠因である。知的公共性が蔵六や諭吉らを自由な政治社会を導く役者に仕立てたのである。



甲南大学法学部は民事訴訟法から日本政治思想史に及ぶ科目を備え、幅が広い。日本政治思想史の基礎・選択・専門の演習では、適塾での教育方法を応用すべく福澤の『学問のすゝめ』や『文明論の概略』、またスマイルズの中村正直『西国立志編』を取り上げた。まずは幕末維新期の時代精神を味わう。そして「すゝめ」によって「自由独立



演習では時代認識のため、和本の写しを使用する